

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(1/5)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
未来創造「新・ものづくり」特区 (静岡県浜松市)	4.0	4.5  進捗度 ・産地力の強化 157%  ・企業立地による地域産業の振興及び雇用の拡大 120%	3.4  規制の特例等 ・市街化調整区域への企業立地に係る農振法・農地法のガイドラインの弾力的運用  地域独自の取組 ・国営三方原用水二期土地改良事業  ・耕作放棄地再生事業  ・市独自の企業立地促進事業  等	4.0	<p>・コロナ禍の影響については注意深く観察する必要がある。特に農業については、参入企業の多くが外食・中食向けの業務需要に対応する生鮮野菜等を中心としていると予想されるため、コロナ禍の影響がどのように出ているかを把握する必要がある。</p> <p>・一部、進捗度が100%切る指標があるものの、総じて望ましい結果となっている。地域独自の取組は相当活発であると評価できる。</p> <p>・農業、工業ともに、数値目標に向けた事業の進展が見られるが、大目標である「市街化調整区域における農業と工業のバランスある土地利用の実現」が実現されているか、やや懸念がある。</p> <p>・航空写真を見る限り、残念ながら現状では、市街化調整区域の土地利用として、農業と工業がバランスあるようには見られない。土地利用は、歴史的に形成されたのであろうが、お互いに効率的な土地利用を目指して欲しい。</p> <p>・指標目標(2)－①新規立地件数は目標値を下回ったとはいえ、増加件数は目標と同じレベルであり、新規立地した事業所の売上高及び新規雇用数ともに、好調で目標値を超えている。R2年度は新型コロナウイルスの影響から多くの経済活動が抑制的になっているにもかかわらず、こうした事業成果が得られていることは十分評価できる。</p> <p>・農業の振興と企業の展開が車の両輪としてバランスをとり、今後も持続してうまくハンドリングできることが課題だろう。</p>